



## 海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	土井 ひかる (どい ひかる)
■ グループ名	
■ 学校名	能生町立磯部小学校
■ 学 年	4 年
■ 年 齢	9 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	佐藤又男・信さん (となりの家のお年寄り) 土井トリノ (祖母)

■ レポートした場所	新潟県西頸城郡能生町 藤崎海岸
■ レポートの題名	藤崎の海辺の今と昔について
■ 内 容	<p>わたしの家のうらは海水浴場です。35年位前(昭和45年位)からお客さんが来るようになったそうです。その頃は海も砂浜もとてもきれいで、わたしの家も平成3年まで民宿をしていたそうです。</p> <p>100件ほどの村に23件も民宿があった頃があったといいます。</p> <p>おじいちゃんとおばあちゃんが始めた民宿ですが、20年も続き、多いときは長野県から来たりんかい学校の中学生が100人近くも泊まったそうです。</p> <p>海水浴場が始まるまではほとんどの家が農業や小さい船での漁業で生活をしていました。うちのおじいちゃんも民宿を始めるまでは冬になると出かせぎに出ていたのだそうです。</p> <p>最近、砂浜が短くなったといいます。横に1キロメートルもある砂浜ですが、沖合いのほうにはテトラポットがたくさん入れられ、砂浜がなくなるのを防いでいます。</p> <p>昔、ぼうはていの役目をしていた砂山は、現在の国道を作るために取りこわされました。そのために砂浜は波によってどんどんけずられていきました。波が国道や民家に上がってくるようになったために砂山の代わりにテトラポットが入れられているのです。</p> <p>もしかすると何十年後には砂浜がなくなり、海になってしまうかもしれないと思いました。</p> <p>となりのおじいちゃんは「昔は浜一面にいわしが打ち上げられ、銀色に光ったものだ」と言っていました。数はへっても今でも色々なものが打ち上げられます。エゴや天草・ワカメなどの海草。カイダコみたいな</p>

めずらしい生き物。でも、ハタハタの卵やナマコ、砂利などは上がらなくなりました。

カンやビンやプラスチックはたくさん流れ着きますが、最近では外国語がいんさつされた物が多いです。

お父さんはたまにうらの砂浜へ砂ガニやハッコ(本当の名前はヒメハマトビムシ)、ウミガメ(本当の名前はスナホリガニ)取りにつれて行ってくれます。昔より数は少なくなったといいますが、いつまでもこの砂浜に住んでいてほしいと思います。

平成の始めころ、この地域は下水道になりました。生活はい水で、きたなくなった海もそれからだんだんきれいになってきたそうです。

もっともっときれいな砂浜や海が守られてほしいと思います。

藤崎海岸



昭和29年6日(1954年)





昔は砂浜も広く漁師をしている人もいた。

今年の砂浜

